

トンコハウス PRESENTS

アニメーション制作 ワークショップ

1日目

7.25(土)

キャラクター制作

2日目

7.26(日)

ストーリー制作

3日目

8.2(日)

作品発表、スタジオ見学



アメリカと金沢市に拠点をもち、国内外で活躍するアニメーションスタジオ「トンコハウス」。
今回は、米アニメ賞で2部門受賞した『ONI～神々山のおなり』の制作に携わったアーティストのお二人
をお迎えし、3日間かけて「やおよろずの神」をテーマとしたキャラクター、ストーリー制作を体験します。

時間

各日10:00～12:30 (集合9:50)

会場

ITビジネスプラザ武蔵 5階(武蔵町14-31)

対象

金沢市に在住、または在学の中学生・高校生

定員

20名

参加費

1,000円

持ち物

筆記用具、飲み物等

※デジタルで絵を描きたい方は、デジタルで絵を描けるツールをご持参ください。

申込方法

- ・3日間通しのプログラムですので、全日程にご参加いただける方のみお申し込みください。
- ・二次元コードから必要事項を入力の上、お申込みください。
- ・申込者多数の場合は、抽選となります。

アニメーション制作の
世界を覗いてみませんか？

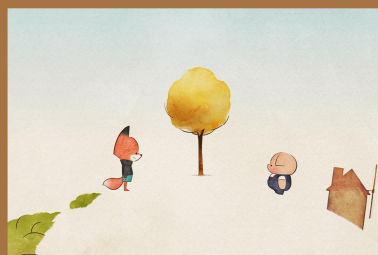


主催：金沢市 協力：トンコハウス

お問い合わせ先：金沢市産業政策課 076-220-2204 sansei@city.kanazawa.lg.jp

トンコハウスって？

TONKO  HOUSE



トンコハウスは、ピクサーでアートディレクターを務めていた堤大介とロバート・コンドウが、2014年に短編映画『ダム・キーパー』を共同監督したことをきっかけに、2014年7月にカリフォルニア州パークレーに共同設立したアニメーションスタジオ。

『ダム・キーパー』は2015年に第87回アカデミー賞短編アニメーション賞にノミネートされたほか、世界各地で25の賞を受賞、75の映画祭で上映された。

2016年制作の短編映画『ムーム』は世界8カ国の映画祭で数々の賞を受賞。2017年、日本のHuluで配信されたエリック・オー監督の『ピッグ - 丘の上のダム・キーパー』は、フランスのアヌシー国際アニメーション映画祭2018にて、TV部門でグランプリに値するクリスタル賞を受賞し、配信後にNHKでも放送された人気作品。Netflixで配信中の『ONI ~ 神々山のおなり』は2023年に“アニメーション界のアカデミー賞”と称されるアニメ賞で2部門受賞し、米テレビ界最高峰の栄誉といわれるエミー賞でも3部門で受賞。2019年からは石川県金沢市にもスタジオを構え、日米の2拠点をベースに活動。作品制作以外にも展覧会やイベント、ワークショップの開催など多角的に展開している。

講師のご紹介

栗田 唯 ストーリーアーティスト



高知県出身。2012年にサンフランシスコの美術大学AAUの大学院に入学。Blizzard Entertainmentにてストーリーボードアーティストとしてキャリアをスタートし、帰国後はMARZA ANIMATION PLANETで「Ninjala」のストーリーボードを手掛ける。その後、堤大介監督からのオファーで『ONI ~ 神々山のおなり』のストーリーボードに携わり、現在はフリーランスのストーリーボードアーティストとして活動中。

橋爪 陽平 コンセプトアーティスト



千葉県出身。2017年スタジオコロリドに制作進行として入社し、映画『ペンギン・ハイウェイ』等を担当。2018年トンコハウスに入社。『GO! GO! コリー・カーソン』でコンセプトアートを務め、絵本『ダム・キーパー』ではペイントを担当。『ONI ~ 神々山のおなり』では、ビジュアルデベロップメントアーティストとしてカラーズクリプトなどを手がけ、米アニメ賞にてベスト・プロダクション・デザイン賞（テレビ／メディア部門）を受賞。